

なつおとめ

登録番号：第 10382 号

登録年月日：平成 14 年 7 月 10 日

登録者：(独)農業・食品産業技術総合研究機構

育成者：吉田雅夫 京谷英壽 山口正己
小園照雄 中村ゆり 西村幸一
土師 岳 福田博之 三宅正則

木原武士 八重垣英明 鈴木勝征

来歴：「あかつき」と「よしひめ」の交雑実生

育成地：茨城県つくば市藤本 (独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所)

特性

■栽培特性

樹勢はやや強く、樹姿はやや直立する。枝梢の発生は多く、太さは中程度である。花芽は複芽となり、着生は多い。花粉を有し、自家和合性である。開花期はやや早く、「あかつき」と同時期で、育成地（茨城県つくば市）では 4 月 8 日頃である。生理落果の発生は少ない。

■果実特性

果形は扁円形で、果頂部はやや浅く凹む。梗あは深く、広さは中程度である。果皮の地色は白色で、着色はやや多い。裂果や肌荒れは認められず、外観良好で無袋栽培に適する。果肉は溶質、白色であるが、紅色素の発生が果肉内で認められる。果肉の粗密は密で、肉質は良好である。核は粘核で、大きさは中程度である。果実重は 250~300g 程度で「あかつき」より大きくなり、玉張りは良好である。育成地での収穫期は 8 月上旬となり、「あかつき」よりも 1 週間程度遅い。糖度は「あかつき」よりもやや高く、13%以上となる。酸味は少なく、食味は良好である。

果肉内が水浸状になり、重度の場合には褐変する「みつ症」の発生が認められ、他の品種と較べると発生はやや多いと考えられる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

せん孔細菌病、灰星病には罹病性であるが、慣行防除で「あかつき」と比べて特に問題とはならない。

花芽の着生は多いので、適切な着果管理を行う必要がある。

「みつ症」の発生が他の品種と較べるとやや多い。「みつ症」は軟化が進んだ果実で発生が多くなるので、適期収穫を心がけ、樹上に置きすぎて過熟とならないように注意する必要がある。

■地域適応性

東北から九州までのモモの栽培地域で栽培が可能である。外観良好で無袋栽培が可能であり、高品質果実を得ることができる。収穫期は従来優良な品種の少なかった「あかつき」と「川中島白桃」の中間となり、高品質品種の連続出荷が可能となる。

(八重垣英明)